



鹿沼の自然・栃木の旅

月報第47号
(2016年10・11月)

祝・ノーベル文学賞受賞記念特集



*How many years can a mountain exist
Before it's washed to the sea?
Yes, 'n' how many years can some people exist
Before they're allowed to be free?
Yes, 'n' how many times can a man turn his head,
Pretending he just doesn't see?
The answer, my friend, is blowin' in the wind
The answer is blowin' in the wind*
『Blowin' in the Wind』(風に吹かれて) 詳細は4頁から

北光クラブ
自然観察クラブ 鹿沼



活動案内・1

坂田稲荷奥社と来光参拝

鎌倉時代、鹿沼権三郎入道教阿が銅製の灯籠を日光山の新宮（現在の日光二荒山神社）に奉納した頃、誰が鹿沼を支配していたかについて確証はないが、鹿沼城城郭の中心は、坂田稲荷奥社のあるところ、すなわち坂田山で最も高いげんこつ山付近ではないか、と考えられています。曲輪は消滅してしまったようですが、土塁や堀は今も見ることができます。げんこつ山に登って奥社に参拝し、御来光に新年の無事を祈りましょう。

日 時：2017年1月1日（日）AM6:00 御殿山北側の市役所⑨集合

活動案内・2

八溝山ハイキングと「おくのほそ道」探訪

栃木県、福島県、茨城県の3県にまたがる八溝山地の主峰、八溝山（標高^{やみぞさん}1022m）に登ってみましょう。山頂直下まで車で行くこともできますが、今回は標高765mの^{にちりんじ}日輪寺入口に車を置いて、山頂の八溝嶺神社に至る旧参道を湧水群めぐりをしながら登ります。山頂まで約2時間です。下山は別の道をとって、日輪寺に立ち寄ります。

下山後、那須与一伝承館を見学し、裏手にある那須神社を訪ねましょう。

「寛永十七年、黒羽の城主大関信濃守増栄本社を改築し、金丸檜沢の両村内に於て社領五十石を寄付し、累世崇敬せしむ。」

渡辺金助著『増補那須郷土誌』（大正6年5月、金林堂発行）

同・再編復刻版（1994年11月10日、（株）ヨークベニマル発行）

現在那須神社に建つ楼門（県文）は、この寛永17（1640）年、5代藩主大関増栄が社殿を改築した時の建造です。

日 時：2017年1月15日（日）AM7:00 北小西門集合

行 程：鹿沼（北小）7:10——（国道293）——氏家——（293）——馬頭——（294）——黒羽——須佐木——佐貫——中ノ内——

上野宮——^{じゃけつ}蛇穴——旧参道口①……金性水……鉄水……白毛水……
銀性水……八溝山頂（八溝嶺神社）……日輪寺……旧参道口①——
那須与一伝承館……那須神社——西教寺（曾良の句碑）——
^{かのこはたすいと}鹿子畑翠桃墓地——^{しゅげんこうみょうじ}修験光明寺跡（芭蕉句碑）——鹿沼北小

服 装：防寒着、帽子、手袋、軽登山靴または運動靴

持ち物：リュックサック、水筒（ポット）、弁当、おやつ、雨具、お手ふき、
ハンカチ、ちり紙、筆記用具、レジ袋、レジャーシート、スパッツ

必要に応じて：双眼鏡、ルーペ、カメラ、LED ランプ、ストック、

参考書（栃木の山 150、茨城県の歴史散歩、栃木県の歴史散歩、
下野のおくのほそ道（栃木県文化協会））

1/25,000 地形図は「八溝山」「町付」

参加費：おとな 700 円、子ども 350 円（ガソリン代等）

今年度保険料（4～3 月、1 年間有効）として

子ども 800 円、おとな 1,850 円（65 歳以上 1,200 円）

問合せ&申込み：電話 090-1884-3774（阿部）



☞ その他のご案内 ☜

自然観察クラブ新年会

今回は会場側の都合により大人のみ（中学生以上）の会とします。また楽しい二次会もありますので、万障お繰り合わせのうえ、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

間際のキャンセルもいけませんので、参加くださる場合は、とりあえず人数を年末までに、阿部までお知らせください。よろしくお願いいたします。

日 時：2017 年 1 月 21 日（土）PM6:00

会 場：枝（中田町 1354-1、☎0289-64-4341）

会 費：男子 6,000 円くらい、女子 4,500 円くらい

ショートメッセージ：「旅をもっと楽しむために～最新 OA 機器の活用法～」

（株）アクセス代表・石崎隆史氏

THE FREEWHEELIN' BOB DYLAN
ボブ・ディラン Bob Dylan Released: 1963.5

Blowin' In The Wind(風に吹かれて)

どれだけ道があるいたら
一人前の男としてみとめられるのか？
いくつの海をとびこしたら 白いハトは
砂でやすらくことができるのか？
何回弾丸の雨がふったなら
武器は永遠に禁止されるのか？
そのこたえは、友だちよ、風に舞っている
こたえは風に舞っている

幾年月 山は存在しつづけるのか
海に洗いながされてしまうまえに？
幾年月 ある種のひとびとは存在しつづけるのか
自由をゆるされるまでに？
何度ひとは顔をそむけ
見ないふりをしつづけられるのか？
そのこたえは、友だちよ、風に舞っている
こたえは風に舞っている

何度見上げたら
青い空が見えるのか？
いくつの耳をつけたら為政者は
民衆のさげびがきこえるのか？
何人死んだら わかるのか
あまりにも多く死にすぎた？
そのこたえは、友だちよ、風に舞っている
こたえは風に舞っている



A Hard Rain's A-Gonna Fall(はげしい雨が降る)

どこへいったの、青い目のむすこ？

どこへいったの、わたしのかわいい坊や？

十二の霧の山腹につまづいていた

六つの曲りくねったハイウェイをあるいたり、はったりしていた

七つの悲しい森のまんなかにふみこんできた

十二の死んだ海の前にはいた

墓場の口に一万マイルは行ってた

それで ひどい ひどい ひどい ひどい

ひどい雨が降りそうなんだ



なにを見たの、青い目のむすこ？

なにを見たの、わたしのかわいい坊や？

ダイヤモンドのハイウェイを見たけど だれもいなかった

くろい枝から血がしたたりつづけるのを見た

部屋いっぱい男たちが血のしたたるハンマーをもっていた

白いはしごが水につかっているのを見た

一万人のおしゃべりが舌がだめになっているのを見た

ちいさな子どもが手に鉄砲や剣をもっているのを見た

それで ひどい ひどい ひどい ひどい

ひどい雨が降りそうなんだ

それで なにがきこえたの、青い目のむすこ？

それで なにがきこえたの、わたしのかわいい坊や？

雷の音がきこえた、それは警告を発していた

波のうなりをきいた それは全世界をおぼらせる

百人のタイコたたきをきいた 彼らの手はもえていた

千人のさきやきをきいたが だれもきこうとしていなかった

ひどりが飢え死ぬのをきいた 多くのひとがわらうのをきいた

どぶで死んだ詩人の歌をきいた

路地裏でさけぶ道化師の音をきいた

それで ひどい ひどい ひどい ひどい
ひどい雨が降りそうなんだ

だれにあったの、青い目のおすこ？
だれにあったの、わたしのかわいい坊や？
死んだポーニーのそばのちいさな子どもにあった
くろいヌをあるかせている白い人にあった
からだかもえている若い女のひとにあった
ひとりの少女にあつたら、彼女は虹をくれた
恋に傷ついたひとりの男にあつた
憎しみに傷ついたもうひとりの男にあつた
それで ひどい ひどい ひどい ひどい
ひどい雨が降りそうなんだ

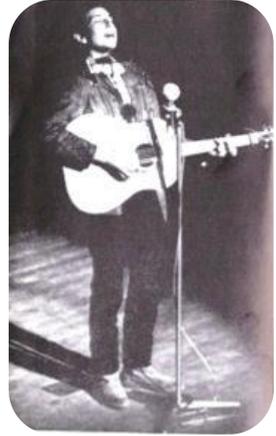


なにをしようというの、青い目のおすこ？
なにをしようというの、わたしのかわいい坊や？
雨が降りだすまえにもういちど出かけたい
ふかい黒い森のふかみまで歩きたい
そこには多くの人びとがいて彼らの手はからっぽだ
そこでは毒だんごが水にあふれている
そこでは谷間のわが家がしめっぽいきたない牢屋とおかいあわせだ
そこでは執行人の顔はいつもまくかくされている
そこでは飢えが見苦しく、魂はわすれられている
そこでは黒が色で、ゼロが数だ
それでぼくはそのことを告げ、かんがえ、しゃべり、呼吸するだろう
山から反射させ すべてのひとびとに見えるようにしたい
そして沈みはじめるまで海に立っていたい
だけどうたいはじめるまえに自分の歌をよくわかるようになるだろう
それで ひどい ひどい ひどい ひどい
ひどい雨が降りそうなんだ

(次ページへ続く)

Don't Think Twice, It's All Right(くよくよするなよ)

腰をおろして考えこんだってどうにもなりゃしない
しょうがなかったことなんだ
腰をおろして考えこんだってどうにもなりゃしない
いままでにわかっていないようではね
夜明けにオンドリが鳴くとき
窓から見てごらん ぼくはきえてるぜ
きみのせいでぼくは旅をつづけるんだ
くよくよしてもはじまらない、これでいいんだ



あかりをつけてもどうにもなりゃしない
ぼくにはあかりなんてなかったもの
あかりをつけてもどうにもなりゃしない
ぼくは道の暗い側にいるんだから
でも君には何かいうとかするとかしてほしかった
行かないでって ぼくの気持ちをかえてほしかったんだ
ふたりはあんまりはなしもなかったんだから
くよくよしてもはじまらない、これでいいんだ

ぼくの名まえをわめいたところでどうにもなりゃしない
いままで一度もしなかったことだもの
ぼくの名まえをわめいたところでどうにもなりゃしない
もうぼくにはきこえないんだから
道をたどりながら かんがえ おもいつづけている
かつて女を恋した、あんたは子どもねといわれた
ぼくは心を捧げたけれど彼女はぼくの魂をほしがった
だけど くよくよしてもはじまらない、これでいいんだ

あの遠い、さびしい道を、ぼくはあるいている
どこへいくか わからない
だけど さよならなんてことばは もったいない

だからただこう言う 元気でね
きみがつめたかったなんていうつもりはない
もうちょっとやさしくしてほしかったけれどしかたがない
ぼくの貴重な時間をむだにしたようなもんだ
けど、くよくよしたってはいじまらない、これでいいんだ



人物紹介・ボブ・ディラン

LP レコード「THE FREEWHEELIN' BOB DYLAN」解説より

1962～63 のディラン…浮浪児からスターへ

『フリーホイーリン』は、ボブ・ディランの2枚目のアルバムに当たる。そして、彼のもっとも重要な作品である。

彼の最初アルバム『ボブ・ディラン』は、収録されている曲目のほとんどがトラディショナル・ナンバーであった。つまり、それは、シンガーとしてだけのディランのレコードであって、ソング・ライターとしての彼は、そこにはまだ、なかったということになる。だから、この『フリーホイーリン』について、もう一度はじめから言いなおすなら、これはシンガーとしてのボブ・ディランの2枚目のアルバムであり、ソング・ライターとしてのボブ・ディランの、いわばデビュー・アルバムなのである。

曲目を見ていただければ、ぼくの言おうとしていることは、すぐに理解されるだろう。『風に吹かれて』『戦争の親玉』『はげしい雨が降る』『くよくよするなよ』『第3次世界大戦を語るブルース』など、ディランの初期の代表的な作品が、せい揃いしている。ディランの名前が、1962年から63年にかけて急速に有名になったのは、これらの作品によってであった。

ディランがニューヨークに出てきて、地下鉄構内にネグラをかまえるフーテンの仲間入りをしたのは1961年2月のことだったといわれている。そして、グリニッチ・ヴィレッジのコーヒー・ハウスで歌わせてもらうといっても、最初はテイのいい“流し”のようなものだったろうが、だんだん認められて『ギヤスライト』『ガードのフォーク・シティ』など有名なフォーク・スポットに出演するようになった。評論家のボブ・シュルトンは、同年9月29日付「ニューヨーク・タイムズ」にディランの紹介記事を書いてくれた。

この記事が出たのと同じ日、ディランは、CBS・レコードのスタジオで、初めて吹込みをやっている。といっても実はこれは、キャロリン・ヘスター(女性歌手)の伴奏者のひとりとしてハーモニカを吹く仕事だった。だが、そのとき、CBSのA&Rの大御所、ジョン・ハモンドとの結びつきができたことは、重要な意味をもっている。というのは、ディラン自身のデビュー・アルバム

吹込みのチャンスを与えたのがこのハモンド氏であり、デビュー盤も『フリーホーリン』も、彼がA&Rを担当しているからである。

ジョン・ハモンドといえば、ジャズ・ファンには親しい名前だ。1930年代、ベニー・グッドマンやカウント・ベイシーのパトロンとして、スウィング・ジャズ隆盛の陰の男だった。彼が主催した1938、39年のカーネギー・ホール・コンサートは有名である。そして彼の息子ジョン・ハモンド・ジュニアは、ブルース・ブームが起るずっと前から活躍していたホワイト・ブルースの先駆者であり、グリニッチ・ヴィレッジで歌うディランを聞いて大いに気に入り、父にディランを推薦したのだ。

さて、ディランがハモンド氏に認められてデビュー盤を吹込んだのは1961年11月20、22のことであった。このアルバムが割とスナリと出来上ったのにくらべると、次の『フリーホーリン』は、すごく手間ひま掛けている感じた。録音データはあとで書くが、最初のセッションが1962年7月9日、このとき『風に吹かれて』など4曲を吹込んだ最後が『戦争の親玉』などの1963年4月24日で、このかん計5回にわけて吹込まれ、9ヶ月半もの月日が経過している。

最後のセッションのすぐ前、4月12日にはタウン・ホールでのコンサート、そして3か月半のちのニューポート・フォーク・フェスティバル(7月26日～28日)で完全に大スターとなってしまったことを考えると、『フリーホーリン』の吹込み時期の9か月半は、ボブ・ディランにとってもっとも重要な時期であったといえるだろう。

プロテスト・ソング・ライターとしての栄光

『フリーホーリン』には、当時のディランのもつさまざまな面が出ている。それらのさまざまな面が、その後どういふふうに進化して行ったかというのは非常に興味ある問題だが、とくにこのアルバムの解説でぜひとも触れておかななくてはならないのは、プロテストソングのシンガー・ライターとしての一面であろう。

1962～63年という時期、アメリカ社会は、ほうはいとして起った公民権運動の高まりの中にあつた。ナッシュヴィルでの黒人学生のシット・イン(すわり込み)闘争が開始され、SNCCが誕生した1960年から、いわゆるワシントン大行進が行なわれた1963年までの数年間は、ケネディ大統領就任(1961年)がもたらしたムードとしての自由主義的風潮をバックに、体制内改良主義的な非暴力闘争が大きな盛り上がりを見せた時期と規定することができると思う。

『風に吹かれて』という歌が大きく広まったという事実は、そのような時代精神を抜きにしては理解できない。

ディラン自身、ワシントン大行進には参加したし、SNCCに献金しているという噂もかなり広く信じられていた。しかし、彼がどのくらい本気で公民権運動に加担していたかは、誰にもわ

(次ページへ続く)

からない。とにかくハッキリしているのは、運動に共感する若者たちに、『風に吹かれて』が熱烈に支持されたという事実である。PPMその他多くの歌手やグループが歌い、レコードがヒットし、『勝利はわれらに』と並ぶ公民権運動の象徴となった。LP『フリーホイーリン』も、発売と同時に毎週1万枚ずつ売れて行くといわれたほどの評判になったが、そうした人気をささえたのは公民権運動に心情的共感をもつカレッジ・ボーイたちだったと考えていいだろう。

こうして、ディランは『風に吹かれて』によってプロテスト・ソングの若きヒーローと見られるようになった。

しかし、よく歌詞をみると誰でも気づくように、『風に吹かれて』はいろいろと疑問を投げかけている歌ではあっても、大してキッパリとした抗議の調子をもっているとはいえない。むしろ『答は風に舞っている』というリフレインに、虚無的な匂いすら嗅ぎつける人もいるくらいだ。この歌にくらべると、『戦争の親玉』は、申しぶんなくプロテスト的であり、極めて激越な調子をもっているが、正直いってアメリカではこの歌はそれほど受けなかったようだ。この歌がディランの代表作のひとつに数えられているのは日本でのことだといっていいと思う。『フリーホイーリン』の中で歌われた歌の中では、むしろ『よくよするなよ』のほうが評判になったし、『風に吹かれて』について多くの他のアーティストたちに歌われたが、『よくよするなよ』はどこにもプロテストの要素はない。

こうみえてくと、1963年をピークとするディランのプロテスト・シンガー・ライターとしての名声は、やや実体との間にズレをもっていたように思われる。ディラン自身がこのズレに耐えられなかったことから、彼はプロテストの歌を書かなくなり、「よくよするなよ」の延長線上に進路を求めていった——そしてそれがいわゆるフォーク・ロックというものになったのではないか、という気がしてならない。

『フリーホイーリン』の内容

アルバムは「風に吹かれて」(1962年7月9日録音)から始まる。彼の“悪声”は当時すでに有名だったがなるほど芳紀?21歳とはちょっと思えない声だ。しかしこのころの彼としては、この曲はすごく神妙に、ていねいに歌っている。この曲の内容についての誠意の表われだろう。なお「風に吹かれて」のメロディは古い黒人霊歌「奴隷のせり売りはもういやだ」を借用しているといわれている。

「北国の少女」(63年4月24日録音)は後年の「ナッシュヴィル・スカイライン」でジョニー・キャッシュとデュエットしている。このオリジナル盤は、何となく、みずみずしい感覚をもっているように見える。歌詞は、のちにサイモンとガーファンクルで有名になった英国古謡「スカボロー・フェア」にもとづいている。

(次ページへ続く)

「戦争の親玉」(63年4月24日録音)がいわゆる死の商人を告発した歌であることはいまさらいうまでもない。ディランの作品の中でも最も激越な言葉を使ったプロテスト・ソングだと前に書いたが、それでも彼の表現はけっして観念的だったり理窟っぽかったりせずむしろ極めて感覚的であり、詩形はかなり民謡っぽい。メロディーはジーン・リッチがよく歌うアパラチア民謡「ノッチマン・タウン」。

「ダウン・ザ・ハイウェイ」(62年7月9日録音)には古い黒人ブルースの感覚が強く出ている。歌うというより“語る”感じ。「あの子は遠い国へ行っちゃった」と歌っているが、実際にこのころディランの恋人だったスー・ロトがイタリアへ留学したという事実がある。なおこのアルバムの表紙写真は、雪のグリニッチ・ヴィレッジをほつつき歩くボブとスーである(撮影ドン・ハンステイン)。

「ボブ・ディランのブルース」(63年4月24日録音)は前の曲より白人的。カントリー的といってもよかろう。ウッディ・ガスリーの得意だったトーキング・ブルースに近い感じで、頭に浮かんだことをどんどんシャペリまくっているようだ。

「はげしい雨が降る」(62年12月6日録音)がキューバ危機(62年10月に起った)の緊張の中で書かれたことは周知の事実だ。これは作品としても、歌唱としても、このアルバムの中で最高の傑作だと思う。「ロド・ランドール」などの古いバラッドに似せて作った歌詞の、別に意味のない歌詞の積み重ねを、彼は心からの悲しみをこめて歌っている。

B面は、フレーズの末尾をぶったぎるように、ニヒルなひびきをこめて歌う「くよくよするなよ」(61年11月14日録音)でスタートを切る。男と女の気持の喰いちがいと放浪への志向をテーマにしたこの歌に、後年の彼の作品傾向の萌芽がみられることは前述した。

この曲も、次の「ボブ・ディランの夢」(63年4月24日録音)も、かなり古い民謡の感じをもっている。この曲の内容は彼が長い間あたためていたものだったが、1962年の暮から63年はじめにかけてイギリスを旅行したときに向うで聞いた古いバラッド「ロード・フランクリン」のメロディを借りてまとめ上げた。この曲や次の曲あたりでのフラット・ピックによるギターの奏法はガスリーゆずりである。

「オックスフォード・タウン」(62年12月6日録音)に歌われているオックスフォード市はミシシッピ州にあり、ミシシッピ大学の所在地。ジェイムズ・メレディスという黒人がこの大学に入学願書を出したが却下され、裁判にもち込んで最高裁判決でようやく認められた。ところがこの判決を同州知事や大学総長が拒否してケネディ大統領と対立したことから差別主義者の白人が暴動とテロを起すという事態になった。結局メレディスはケネディの派遣した軍隊に守られてようやく入学を果たしたのであった(1962年9～10月のできごと)

「第3次世界大戦を語るブルース」(63年4月24日録音)はトーキング・ブルースの形。夢に

(次ページへ続く)

みた第3次世界大戦(一核戦争)の恐怖を語る。ハーモニカがすごくいい。

「コリーナ・コリーナ」(62年10月26日録音)だけブルース・ラングホーンのギター、レオ・ガスキンのベース、ハーブ・ラヴィールのドラムスが伴奏についている。曲はデキチーでもよく演奏するブルース。

「ワン・モア・チャンス」(62年7月9日録音)もテキサスのブルース・シンガー、ヘンリー・トマスの作品(オリジナルは1927年吹き込み。オリジンOJL3に収録)をもとにしているが、原曲のおもかげは残らないほど改変してしまった。

最後の「アイ・シャル・ビー・フリー」(63年4月24日録音)は同じ日に吹込んだ「ボブ・ディランのブルース」に似た、軽口ふうのものだが、ディランらしいきらめきがあちこちに見られる。

以上がレコードに入っている13曲だが、ここに入らなかった14番目の曲についてちょっと触れておきたい。それは右翼団体「ジョン・バーチ・ソサエティ」を語ったトーキング・ブルースで、このアルバムに入るはずだったが発売直前になってオミットされた。一説にはファースト・プレスの分だけ入っていたともいう。)このアルバムを吹込んだのち、ディランはエド・サリヴァン・ショーの5月12日放送分に出演して同じ曲を歌う予定だったが、大モメにモメたあげく、おりてしまった事件が起る。ケネディ登場でアメリカにも革新と自由の風が吹きはじめたかに思われたころに制作された「フリーホイーリン」だが、右翼団体を批判することさえ至難だった。やはり「いつ自由になるのか」という問に対する回答は「風に舞って」いたのである。

解説／中村とうよう

人物紹介・ボブ・ディラン (補足)

ボブ・ディラン (Bob Dylan, 1941.5.24～) アメリカのミュージシャン。出生名はロバート・アレン・ジーママン (Robert Allen Zimmerman) だが、後に自ら法律上の本名もボブ・ディランに改名している。“ボブ”はロバートの愛称、“ディラン”は詩人ディラン・トマスにちなむ。

「風に吹かれて」「時代は変わる」「ミスター・タンブリン・マン」「ライク・ア・ローリング・ストーン」「見張塔からずっと」「天国への扉」他多数の楽曲により、1962年のレコードデビュー以来半

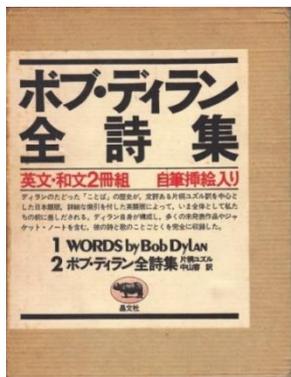
世紀以上にわたり多大なる影響を人々に与えてきた。現在でも、「ネヴァー・エンディング・ツアー」と呼ばれる年間100公演ほどのライブ活動を中心に活躍している。

グラミー賞やアカデミー賞をはじめ数々の賞を受賞し、ロックの殿堂入りも果たしている。また長年の活動により、2012年に大統領自由勲章を受章している。そのほか、



両親

2008年には「卓越した詩の力による作詞がポピュラー・ミュージックとアメリカ文化に大きな影響を与えた」としてピューリッツァー賞特別賞を、2016年10月に歌手としては初めてのノーベル文学賞を授与されることが決定。発表から2週間も沈黙を守っていたが、「あまりの事に、言うべき言葉が見つからなかった」とのことと、同月28日に授賞を受け入れると発表した（しかし授賞式は欠席）。



『ボブ・ディラン全詩集』
片桐ユズル・中山容訳
1974年3月30日
晶文社発行



(左) サイ&バーバラ・リバコフ著・鈴木道子訳
『モダン・フォークの巨星ボブ・ディラン』
(1966年10月20日・東亜音楽社)



(中) 三橋一夫著『ボブ・ディランの軌跡』
(1972年8月25日・主婦と生活社発行)



(右) サイ&バーバラ・リバコフ著・池 央歌訳『ボブ・ディラン』
(昭和49年3月20日・角川書店)

人物像拝見・スーズ・ロトロ

「フリー・ホイーリング・ボブ・ディラン」のジャケットを飾ったふたり。一人はもちろんボブ・ディラン。そしてその腕に抱きついている女性、ディランの恋人であったスーズ・ロトロについて、LP盤の解説にはどこにもその記述がないが、アンソニー・スカデュト著『ボブ・ディラン』(訳:小林宏明)のこの項を読み進めた時、スーズ・ロトロがいなければ傑作「フリー・ホイーリング・ボブ・ディラン」はその存在すらなかった、とさえ言えるのではないかと僕には思えるのである。

そこで次に彼女について書かれた部分をご紹介します。

(阿部良司)

いる叔父を訪問し、そこで白人の若い女に口笛を吹くという過ちを犯した、14歳になるシカゴ生まれの黒人少年の話を、順を追って話していくものだ。ティルはさんざんなぶりにものにされ、銃殺されて河へ投げこまれた。その殺人者たちは、罪に問われることがなかった。

けれども、ディランの関心は、公民権運動だけにとどまらなかった。友人の何人かは、スーズのラディカルな関心が、公民権運動よりもっと広範囲にわたっていて、ディランはその影響を受けたのだ、と思っている。ミセス・スミス。「彼がスーズに会う前、社会主義者の団体のためにうたうのはやめるよう、私は彼に言ったのです。たとえ20ドル稼ぐことができ、そのお金をいろいろなことに使うことができてもです。なぜかという、私は彼が影響されて過激な行動に走るのが怖かったからでした。彼は、社会を変革するような、地道な仕事をするには若すぎましたし、勉強も足りませんでした。ところが、やがてスーズが現われ、彼にピート・シーガー的な道を歩ませたがりました。彼女は、公民権問題や、シーガーが参与していたすべてのラディカル運動に、ボビーも参与することを望んだのです。スーズはそのような運動に、非常に興味を抱いていたのです。それは彼女自身が今まで育ってきた環境や、父親に対する追憶からでてきたものでした。父親のことを、彼女はよく話していました。彼は政治的にアクティブだったので、それが、彼女にも受け継がれたのです。そんなわけで、彼女は、ボビーにかなり影響を与えました。最初は、私もそれに頭をいためました。ラディカルな態度を取ることで、ボビーがだれかに殴られたり、傷つけられたりしないかと心配だったのです」

(中略)

ディランとバエズに関する噂は、当時、噂以上のなものでもなかった。時どき、2人一緒のところが見られたが、彼らは単に、お互いに音楽をやっているプロフェッショナル同士にすぎなかった。事実ディランは、相変らず、バエズには我慢できない、と人びとに言っていた——そして、それを耳にした何人かの人、人気絶頂だった彼女を彼が嫉妬しているのだ、と感じていた。のち、彼女のアルバム『イン・コンサート/パート2』に、彼は次のように書いた。ニューヨークについた時には、「美しいように見える唯一のものでも醜いのだ」と信じていたから、ジョーンの美しさだけは特別だと言われても、彼には素直に受けとれなかった、と。ジョーンの声や魅力は、彼の「つんぼの壁」には通じなかった。その壁がくずれ、彼女を愛することもできるようになったのは、と彼は書いている。それほどあとのことではなかった、と。「愛す」という単語を、ボブは一度も使わなかったが、どのラインにもそれははっきりとうかがわれる。

しかし、1962年のこの当時、ジョーン・バエズとの交際を彼はかなり避けていた。噂は相変らずおとろえていなかった。そして時によると、腹をたてたジョーンは、ゴシップ屋を刺激するような、無茶なことをするようになった。ある晩、彼女はボブとつれだって〈ガーズ〉に入っていた。そこにいたすべての頭が振り向き、場内がざわめいた。ジョーンはレディズ・ルームに入り、着ていたドレスの下にTシャツを押しこんで、クラブ中を歩きまわった。自分が妊娠中であるかのように見せたのだ。

けれど、ボブの心は、まったくスーズに捕えられていた。「彼らは、毎日無駄に送っていた」と、ある友人は回想する。「だれもがそんな風だったが、なんとなく毎日を過ごし、他人とお喋りをし、充実感などすしもなかった」。ヴァン・ロンク夫妻やほかの人たちと、彼らはよくアンテ(新しい札をひくまえに出す賭金)1ペニーで、ポーカをやっていた。スーズに、ボブは5セント与えた。お金がなかったからだが、もし彼女がそれを失えば、彼女はゲームを降るのだった。そして、自分は20セント持って、それを失えば、やはりゲームを抜けた。しかし、これは絶対勝てそうだという固い手がくると、彼はスーズに向ってこう言う

(次ページへ続く)

のだった。「3セントよこせよ。絶対に勝つから」

スーズとボブの衝突は、一緒に住み始めた最初の月に、さらに深刻になった。彼女は、〈ブロードサイド〉に載る彼の歌のいくつかにイラストレーションを施し、絵を描き、ボブにも絵をはじめさせていた。しかし彼女は、ますます日常生活のなかにおぼれていく自分を、毎日のように感じていた。「彼は私に、何もさせまいとしてののよ」と、彼女はある友達に語っていた。「私をいつも自分のまわりに侍らせておきたいのね。だから、私が自分のことをするのを嫌がるのよ。私だって自分自身でなければならぬのに、彼にはそのことが理解できないのだから」

ニュー・ジャージーのある大学教授と、スーズの母は再婚していた。そして、再び、夏をイタリアで過ごすプランを練っていた。スーズはとても行きたかったが、ボブのもとを去ることもまた、嫌だった。これは、自分たちの仲を裂くために、母親がしくんだ筋書きなのだ、とディランは彼女に言いつけた。彼らの友達のひとりが言ったように、彼女の母親は、「子供のロマンスをクラシックなやりかたで裂こう」としているのだ、と大抵の友達が思っていた。それはディランがみんなに言いふらしてまわったことだった。けれど、スーズは自らイタリア行きを決心したのだ、とカーラやスー・ズーカマン、そしてスーズの親友だった2、3人の人たちは主張する。ボブがファースト・アルバムを製作していた時に彼女が感じ取った怖れが、主な要因となったのだ、と。ディランは自らのエゴと関連のあるところだけで自分を愛し、愛らしくして自我を持たぬ、単なるミュージシャンの女になるまで自分を押えつけようとしていた、と彼女は感じていたのだった。

テリ・ヴァン・ロンク。「どうしたらいいのか、彼女にはわかりませんでした。イタリアに行くべきかどうか、彼女はひと月間みんなに尋ねて走りまわっていたぐらいです。私は、自分とボブとの交友関係にひびを入れたものがいったいなんであったのかを、彼女に教えました。もし行くのなら、夏の間ボブがあなたを待っていると期待してはだめよ、と私は彼女に言いました。そして、もし行かないのなら、あとで行かなかったことをひどく後悔するようになるかもしれない、とも。最後の判断は自分でなさい、と私は彼女に言いました。ボブと一緒にのこりなさい、とは一言も言いませんでした。ボブはきっと私にそう言ってほしいと望んでいたでしょうけれど。結局、なぜ彼女をひきとめてくれなかったんだ、ということでもまた喧嘩になりました」

6月8日、彼らは船で旅立った——スーズ、彼女の母、そして、義父の3人だった。旅は8日を要したが、スーズが落ちつき先のペルージャにつくとすぐ、はるばる大西洋を越えて、ボブから電話がかかってきた。ひきかえして家に帰ってくれ、と彼は必死で彼女に頼むのだった。何時間も声をあげて泣き、自分は家に帰るのだと母に言ってしまう衝動にかられた、と彼女はある友人に語っていた。けれども彼女はとどまった。ボブは何度も彼女に手紙を書き送った。実質的に見れば、その多くは最初の手紙で言ったことのくりかえしだった。「ヴァン・ロンク夫妻のところでカードをしたり、多くの人たちとつまらないお喋りをして、ぼくたちは随分時を無駄にしてしまったね。家に帰ってください。そしてお互いを知りあえるようになるろう。お互いを理解しあうようになるろう」。しかし、スーズはとどまった。そしてイタリアに恋をした。「束縛されない自由の味を、彼女は噛みしめたのでしょうか」と、ある友達は言う。「ボブと一緒にいた時、彼女は本来の姿を内にひっこめてしまっている自分を発見したんです。のびのびとした開放感が、陰湿で内にこもった気分に変化しつつあることを、知ったのです。彼女から、彼はすべての生命をしぼり取りました。彼女は働くことも、絵を描くこともできませんでした。そして、一緒にいた頃は、語り合っ、お互いの気持を通じ合うことをしなかったのです。ただテレビばかり見ているか、さもなければ、ディランが演

(次ページへ続く)

奏するのをスーズが坐って聴いているのでした。事態はかなり悪化していました。2人には、メロドラマのかたき役などになるよりも、自分たちの人生でなければならない、もっとましなことがありました。でも、あの頃はそんな状態だったのです」

スーズがボブのもとを去ったことについて、ほかにもうひとつの見かたがあった。ミセス・スミスは、それを次のように表現していた。「自分のもとを去り、自分を見捨てたからといって、やっと見通しがつきはじめたという時に復讐してくるほど彼は残酷ではないだろう、とスーズはそう思ってイタリーへ旅立ったのです。グロスマンが彼の面倒を見ていました。それに思いもよらぬハプニングでしたが、グロスマンの手にかかれれば、成功は時間の問題でした。だから、彼女は、彼のエゴを打ち砕いて、彼に痛烈な批判を浴びせたのです。ほかの人にはできないことでした」

その後数カ月、ディランはスーズが去った悲しみにくれながら過ごした。彼の悲しみは演技で、しかもメロドラマのやりすぎでいやらしい、と感じる友達もいた。いや、あれは演技ではなく、本当の気持なのだ、と信じる者もいた。夏が経過するにつれ、ディランがだんだん憔悴してきたように見えたことには、だれもが同意見だった。ミキ・アイザックスンの回想は、ディランのすべての友人たちの典型だ。

「スーズが行ってしまったあと、ディランはもうまったく意気消沈していました。心にぽっかり穴があいてしまったようなのです。最初の頃は、私たちに近づこうともしませんでした。道で会って声をかけても、答えないのです。精神的にだけでなく、肉体的にも、いろいろ変化がおきました。食事をしなくなり、自分のからだを粗末にします。だんだん彼は、浮浪者の様相を呈してきました——初めの頃は、浮浪者のように見えても、すくなくとも清潔でしたから。1日に2、3回はシャワーを浴びていましたもの。でもスーズが行ってしまったからは、本当に汚らしくなりはじめました。お酒も飲みはじめました。やはり彼女が去ってからです。それにドラッグについてのいろいろな噂でもまわりました。でも、彼は私たちににも話してくれませんでした。ポビーを立ち直らせようと、私たちみんなは最善をつくしていました。彼は自分に自信が持てなくなっていたのだ、と私は思います。彼のパフォーマンスは、いつもより、質がおちてきました。フーテナニーの晩、〈ガーズ〉のステージに立っても、ひどい演奏しかできませんでした。とてもうちひしがれていましたから、彼は自分になにかするつもりではないだろうか、と私たちは心配でした。みんなはお互いに呼びとめあい、こう言ったものです。『ポビーを見たか？ いったいどうしたんだ？』」

初めの頃、スーズはボブにしばしば手紙を書いていたが、やがてしだいに筆が遠のき始めた。労働祭レイバーデー頃には帰国するつもりでいたのだが、10月も11月も、彼女はイタリーにとどまった。そして……ミス・アイザックスンが回想する。「放心したような顔つきをし、がりがりに痩せ細ったポビーが、ヴィレッジ中を走りまわっていました。本当に不潔な恰好でしたね。彼がスーズのことを話す時は、こう言っていました。『もう彼女は帰ってこないと思う。どうやったら彼女を家に連れもどすことができるだろう』そして、だれもが、ボブに悲観的にならぬよう勇気づける努力を、精いっぱいやっていました。スーズは永久に帰ってこないわけではない、と私たちはずっと彼に言いつづけました。彼女はきっと帰ってくるし、愛情だって、昔とちっとも変わっていないだろう、と」

ミセス・スミスが回想する。「スーズがまだイタリーにいる頃、ある晩彼が夕食にやってきましてね。ドラッグについての噂を、私たちは聞いていたので、彼がお酒に一滴も口をつけなかった時、例の噂は噂以上のものなのか、と私は疑いを持ったのです。彼がスーズのことを話したので、私は言いました。『ねえ、ポビー、もうすこし寛容になって、彼女に自分の道を見つけてさせてあげなければだめよ』すると彼はうーんと唸りました。夕食が終って帰りが

け、私は階段を降りようとしているボビーを呼びとめ、こう言いました。『いろいろ噂を耳にしているの。だけど、その噂が気に入らないわ。もし気分が悪いのなら、つまりドラッグか
なにかを飲んでいるなら、どんなドラッグか知らないけれど……』すると彼は遮ってこう言
いました。『ドラッグなんか使っていない。本当に使っていない』

ボブ・ディランからある友人へ。「どこかへ逃げださなくてはならない。人びとはぼくがだ
れだか知るようになり、道でぼくを呼びとめ、『風に吹かれて』ではぼくが何を意味したのか、
とか、ほかの歌の本当の意味はなんなのか、と尋ねてくる。ぼくは気が狂いそうだ。ここから
脱出しなければ」

ボブ・ディランからあるインタビューへ。

「街を、ぼくはしょっちゅうぶらつきます。フェリーに乗って、ステイトン・アイランドに
行ったり、河のそばまで歩いていったりもします。さもなければ、知り合いの画家と、一日
中部屋に閉じこもっています」

9月6日、ボブは、マンハッタンのダウンタウンにある最高裁判所へ出かけて行った。そこ
で、自分の名前を、合法的にボブ・ディラン、と変えたのだった。彼はメイン・ゴール、す
なわち、フォーク・シンガーとして成功することを見失ってまで、スーズに対する苦しい気
持を抱き続けようとはしなかった。コロombiaの広報課は、以前から、ディランを積極的に
売り込んでくれようとしていた。ボブと気の合っていた若いPRマン、ビリー・ジェイムズ
は、(セヴンティーン・マガジン)に働きかけ、その春ボブとインタビューを行なわせるため
にライターをひとり送らせた。それでどうなったかという、9月号に、大きなスプレッド(2
ページにわたる記事)がでたのだ。ほかの雑誌もいくつかディランに興味を示した。ジョン・
ハモンドは、シーズ・ミュージック出版社の社長ルー・リーヴィにひき合わせるために、彼
を送りこんだ。そして、ディランは、リーズの子会社、ダッチス・ミュージックと契約して、
500ドルのアドヴァンスをもらい受けた。ダッチスは、『ウディにささげる歌』、そして『ニュ
ーヨークを語る』を含めて、彼の初期の歌ほとんどを出版した。やがて、業界の噂だが、ア
ーチー・モーガールが『風に吹かれて』を開き、彼をワーナー・ブラザーズに引きぬきたい、
と考えた。当時ワーナーは、ウィトマーク・ミュージック出版社を、買収していたのだった。
彼はディランに話をもちかけ、レコード会社を自分の手中に収めている大会社で働いた方が
よりうまくいくだろう、と彼に確信させた。ディランは同意した。さらに噂では、モーガール
がリーズの契約書を買戻すために、彼に1,000ドル与えたということだ。リーズの首脳陣
は町を留守にしていたので、ディランは重役のだれかと話をつけ、取り引きが、成立した。

スーズがいない間にも、歌は彼から溢れつづけた。初期の傑作は、スーズが去ったあと、1962
年のこの数カ月間に書かれたのだった。ミキ・アイザックスンが回想する。「その夏、私たちは、
私の両親の家に向けて車を走らせていました——ディラン、ジョン・ヘラルド、そしてジ
ーン・レッドパスが同乗していました。途中私は、リア・ヴュー・ミラーを通して、ディラン
が後部座席でなにをしているのか見ました。彼は速記用の、小さなスパイラル・ノートを持
っていて、たしか、4つのそれぞれ異なった歌を、同時にかけてもちで創っていたようです。あ
るページにラインを書き、指で2、3ページ前をめくり、今度はそこにほかのラインを書いて
いるのでした。単語やラインがごちゃごちゃに並んでいて、歌を書きとぼしているという感
じでしたね」

この時期に、すくなくとも1ダースほどの歌がスーズのために書かれていた。「おかしな時
期でしたね」と、ディランは私に語っていた。スーズ、つまり彼が失ったと考えている少女
に言及している個所が、トラヴェリン・ブルース・ソングの『ダウン・ザ・ハイウェイ』や、
恋人——彼女は「聞くところによると子供だった」——に向って、自分は心を与えたのに彼

(次ページへ続く)

女は魂まで欲しがり、自分の「貴重な時間」^{プレシャス・タイム}を浪費してしまったと告げる『ドント・シンク・トワイズ・イツ・オール・ライト』にはある。そのことについて、ディランは次のように説明するのだ。「あれは、ラブ・ソングではない。自分の気持を落ちつかせるためのステートメントだ」。『フェアウェル』（ディランによっては一度もレコーディングされなかった）、『レストレス・フェアウェル』、失われた友情関係についての『ボブ・ディランの夢』、テキサスのブルースマンが演奏していた古い歌を聴き、それを自分でいろいろとアダプテーションしたものだとしてディランが語っていた『ハニー・ジャスト・アラウ・ミー・ワン・モア・チャンス』、『トモロウ・イズ・ア・ロング・タイム』（「いつも、彼は部屋でその歌を演奏していた。いま一度彼女の脇に横になりたいと願う、自分のことをうたった歌だった。世界で彼女の美しさに匹敵するものはない、という内容で、彼がそれを書いていたところも、それをうたっていたところも、私は覚えている」とある友人が言っている）。このようなスーズ宛の歌は、ほかにもまだ沢山あって、数えあげたらほとんどきりが無い。スーズのために書かれたディラン特別のラブ・ソングは、それほど沢山あったのだ。

アンソニー・スカデット『ボブ・ディラン』（訳：小林宏明）（昭和48年5月・二見書房刊）より



ボブ・ディラン最初のLP
自作は2曲ほど



スーズ・ロトロ（Suze Rotolo, 1943.11.20～2011.2.24） アメリカ・ニューヨーク市出身のアーティスト。出生名スーズン・エリザベス・ロトロ（Susan Elizabeth Rotolo）。1960年代前半頃にボブ・ディランの恋人だった女性で、ディランと腕を組んで歩いている姿がアルバム『フリーホイーリン・ボブ・ディラン』（1963年）のジャケット写真にもなった。

初期のディランに様々なインスピレーションを与えた「ミュージ」的存在とされており、彼女が愛読していたアルチュール・ランボーなどのフランス象徴詩やシュール・リアリズムの影響で、ディランの詩が難解になっていたとも指摘されている。オフ・ブロードウェイの舞台美術製作などを行っていた関係で演劇にも詳しく、ディランにブレヒトなどを教えたのも彼女。イタリア系の共産党員であった両親の影響を受けて早くか

ら社会活動を行い、政治的色彩の強さも彼女の影響によるところが大きいとされている。

また中高生の頃からグリニッジ・ヴィレッジ周辺で展開していたフォーク・ソング復興運動にも親しむ。1961年7月、17歳のときにまだ無名で20歳だったボブ・ディランと知り合って恋人同士となり、同年12月から西四番ストリートにディランが借りていたアパートで一緒に暮らし始めるが、翌年6月、ディランを置いてイタリアのペルージャに半年ほど留学。帰国後の1963年1月より再びディランと一緒にになり、5月、アルバム『フリーホイーリン・ボブ・ディラン』がリリースされる。ほどなくしてディランは急速に名声を高めていくが、ディランと一緒にいることのプレッシャーやゴシップなどに耐え切れず、8月には別居。やがて彼の子供の妊娠が判明するが中絶をする。1964年3月には、二人の関係は実質的に終わっていた。その後ディランは関係を修復しようとし、『追憶のハイウェイ 61』（1965年）のレコーディング現場に同席するなど関係は断続的に続いたが、1966年のイタリア再留学を機会に完全に別れることになった。



1972年に国連の映像編集者エンゾ・バートッチオーリ (Enzo Bartoccioli) と結婚、息子のルカ (Luca) はギタリスト。近年はブック・アート (artist's book、装丁芸術) に取り組み、スーザン・ロトロの名義で作品を発表。一時期ニューヨークのパーソンズ美術大学で講師も務めた。

長らくディランについてまとまった発言をしてこなかったが、2004年以降メディアに登場して1960年代前半のグリニッジ・ヴィレッジについて語るようになり、ディランのドキュメンタリー映画『ノー・ディレクション・ホーム』（2005年）にインタビュー出演。2008年、当時のヴィレッジの風俗と、ディランらを含むフォーク・ミュージシャンたちの群像を回想した著書を出版した。日本でも『グリニッチヴィレッジの青春』の題名で2010年に日本語訳が出版された（右写真）。

2011年2月24日、肺癌のためニューヨーク・マンハッタンの自宅で亡くなる。（ウィキペディア等より）



スーザー・ロトロ
『グリニッチヴィレッジの青春』
菅野ヘッケル訳
(河出書房新社、2010年)

男体山ハイキング

10月10日(月) 天気・くもり

天平神護2年3月勝道上人大谷川を渉り初めて当山内に到り四本龍寺を創建す

(日光山沿革略記)

勝道上人による日光山開山 1250 年に当たる今年、7 月 31 日の男体山登拝祭初日に山頂を極めるべく、西山と阿部の 2 名、中宮祠を目指して出発し、清滝にて仲二君と合流したものの、大雨にたたられ、これでは第二いろは坂を登るのも危険と判断し、撤退したのであった。

10 月 10 日、再び日光山開山 1250 年を記念して男体山登山を遂行すべく計画を立てた。西山義信氏は孫の榊瑛州君、高橋空君を伴っての参加、7 月 31 日にも参加希望があったものの多忙のため参加を見送った市議会議員、石川さやか氏も長男の晴樹君を伴って参加された。石川氏は当日 3 つの予定が入っていたそうであるが、男体山登山は優先順位第 1 位であるとか。ありがたい限り。

朝 5 時に集合して中宮祠には 6:30 に到着したものの、日光二荒山神社中宮祠の前の駐車場はすでに満車、少し離れた県営駐車場に車を置いてくる。社務所で登拝料 500 円を支払い、御守護をもらって本殿に参拝、安全祈願をして出発。一合目までは階段の道が続く。その先、道は大木の林立する笹原の中に幾筋かあって、さすが百名山というか、登山者が多いため、地面が露出している。今日も登山者が多く、いつも前後に何人かの登山者を見る。そうなると、ついつられてペースが速くなってしまふ。西山さんが「今日は調子が悪いな」とつぶやく。それもそのはず、「ちょっとペースを落としましょう」と意識してゆっくり歩くことにする。

林道に出たところが三合目で、しばし休憩。樹林越しに見る中禅寺湖と社山が美しい。しかし茶ノ木平あたりにはすでに雲が上がってきている。今日は一日晴の予報だったのだが。しばらく林道歩きが続く。石川さんは疲れの見てきた晴樹君をなだめるため「しりとり」を始める。再び登山道に入るところで休憩。石川さんが地面の草地の中に昆虫を発見。僕の苦手のマダラカマドウマを赤くしたやつだ。北隆館発行の原色昆虫大図鑑全三巻は現在普及している昆虫図鑑の中ではかなり詳しい方だと思うが、これに載っているカマドウマ科はマダラカマドウマの他にクラズミウマだけだ。「淡褐色に暗斑を装う。山林などに多い。」ということからしてこの可能性が高い。黒檜岳がなだらかな山容を拓げている。

樹林帯を行く道はしだいに急登になってきて、五合目に到着。このしばらく先から観音薙というガレ場が続く。ガレ場とは言っても大きな石が露出している所で、比較的安定している。



イタドリやヤマハハコが多く見られたが、すでに実になっているようだ。七合目を過ぎて岩の多い急登が続く。赤い鳥居をくぐり、八合目の滝尾神社に到着。大きな岩の間に暗い洞窟が見えて晴樹君は、その中に不思議なものが見えるらしく盛んに「あれは何ですか？」と訊く。弱視に近い小生には何も見えないので、「探検してきたまえ」と促すと岩場を降りて穴の中に入って行った。見えたものはキノコだったらしい。視力が弱いのは悲しいけれど、さっきのクラズミウマもそうだけど、みんなで山登りすれば、誰かが珍しい物を見つけて、僕に教えてくれるのは本当にうれしいと思う。こういうのを「幸せ」と言うんだろうな。そうこうするうちに九合目に到着。高木がしだいに少なくなり、火山岩の砂礫地となってくる。霧が濃くなり寒くなってきた。一見ハイマツに見えるのはシラビソか、あるいはオオシラビソ（アオモリトドマツ）か。右に溶岩を見ながら砂礫地を進むと山頂の奥宮が見えてきた。

ついに全員そろって登頂することができた。僕と伸二君以外は男体山に初登頂とのことである。霧で展望がきかないのは残念だが、この霧と寒さで標高の高さを感じることはできた。やっと昼めしにありつく。寒風の吹きつける中でも日頃の寝不足がたたくて睡魔に襲われ、おにぎりを三度落とす。

昼食の後、東に進んで真の山頂を目指す。大きな岩の上に剣が立ち、ここが2486m。一等三角点がある場所は2484m（西端）である。

山頂を後にして下山の途につく。日光二荒山神社中宮祠に着く頃はすでにヘッドランプが必要な時間となっていた。12時間近い歩行時間であった。「早く行きましょう」を連発する伸二君に従えば明るいうちに下山できたかもしれないが、体力は続かず、登頂はあきらめることになったと思う。とはいえ、どうしてわが隊はどこへ行っても下山した時は、ほぼ最後尾なのか。それはたぶん、山を十分楽しんでいるからだと思う。



男体山頂にて

いろは坂を下ったあとは、石川さんに運転を任せ、日光で伸二君と別れ、寝ているうちに鹿沼に着いた。

※ 参加者

石川晴樹・さやか、佐々木伸二、榊瑛州・高橋空・西山義信、阿部良司（計7名）

✿ 男体山登拝の風景



2時間ほど登って
見降ろす中禅寺湖の眺望



頂上まであと少し
みんな元気です



西山義信氏
まだまだ大丈夫の77歳

野州文献好古

日光山沿革略記 全

晃嶺 彦坂 謹照 編纂

天平神護2年3月勝道上人大谷川を涉り初めて当山内に到り四本龍寺を創建す

神護景雲元年4月上人二荒の山頂を究めんと欲して果さず山の半腹(今の中宮祠の地或は歌ヶ浜)に留宿すること37日にして四本龍寺に還る是より山中に苦行すること殆ど14年専ら二荒山を開闢して国家を利益せんことを念ず天応元年4月上人宿志を果さんが為め山頂を究めんと欲して又達することを得ず

同2年(延暦元年)3月上人特に大誓を發し奮勵して遂に二荒の山頂に達することを得17日夜山上に苦行して四本龍寺に還る

延暦3年4月上人二荒の山腹湖北の地に立木観音を手刻し寺を創して中禅寺と称す又堂の側に一祠を設け山神を崇めて鎮守とし中禅寺大権現と称す

同8年4月勅使を当山に下して勝道の徳行を賞し特に勅願所と為て封戸若干を賜う又両野総講師に任じ加うるに上人位を以てす

同9年四本龍寺の側に一社を創設して二荒の山神を祭り寺中の鎮守と崇む(のち是れを本宮大権現と称す)

大同2年上人請雨の靈驗あり名誉都鄙に聞ゆ尋で四本龍寺及び鎮守社とも官費を以て之を改造せしめらる



日光山沿革略記
全

弘仁元年山徒 叡願えいがんの命こうむを蒙りて靈驗あり勅賞まんがんじして満願寺くだの号ほうでんを下し又法田若干を賜う(是れより満願寺を以て当山の惣号とす)

同7年勝道上人歳八十有二四月二荒の山頂に登り初て山上に二小祠を設け中腹に一小祠を営む之を男体山三社大権現と称す

同8年3月朔日勝道上人遷化す十余人の徒弟あり其上足せんげを教じょう旻まくと云う師しの後ごを継ぐ勅して大僧都じょうやくに補きょうびんし後又日光山の座主ざすとす爾来代々の山主ざい座主ざんしゅ宣下せんげを賜う

同11年7月空海上人(弘法大師)当山たきの おさんに來りて瀧尾山にょたいちゆうぐうを開き女体中宮かんじょうを勸請して瀧尾山大権現にこうと崇にこうむ尋て二荒の地名を改めて日光と称す(二荒日光国音近きが故嘉号に改めしなり)

嘉祥元年円仁和尙えんにん(慈覚大師)勅を奉じて日光山ちんごに來り三仏堂ごう并に常行法華の二堂どうじょうを創建し比叡山ひえいざんと同じ鎮護すべ國家の道場もんかとなす此時勝道空海の徒都て円仁の門下に屬し天台宗に歸す又座主しょうぜん昌禪はか講師おのおの円仁和尙と議り各徒弟をして36ヶ坊を開基せしめ之を日光山の衆徒と称す(座禪院等18ヶ寺は昌禪の徒之を開基し法門坊等18ヶ寺は円仁の徒の開基に係る)是れより四本龍寺ほんいんを以て本院なと為し通計37ヶ寺となる其総号を一乘実相院いちじょうじつそういんと称す

同3年座主昌禪山衆さんしゅと議り仏岩山ほとけいわやま(恒例山とも云)常行堂の近傍に(今東照宮鐘樓の地)しんでん神殿しんどうを新造して寺中ちんご鎮護の本社これとし之を新宮大権現しんぐうと云い或は満願大権現まんがんと称し(満願寺内の鎮守社なるが故に)又日光大権現とと唱となう是れより四本龍寺きゆうしやの旧社きゅうしゃを太郎山大権現やしろの社やしろとし改めて本宮大権現と称し(山内神社の根本なるが故に新宮に對して本宮の稱を存す)瀧尾の女体中宮を加えて日光三社大権現と称す(三社共渾て社務は日光山座主職の担任にして三ヶ所各々別所を置き座主の命を受け衆徒茲に輪勤す之を三社上人と云)

貞觀2年初て当山神社かんぬしに神主かみぬしを置きたまう(以下略)

(明治28年5月13日発行、明治45年7月5日11版、輪王寺寺務所)

※「御所の森」に関する参考図書

柳田芳男著『かぬま郷土史散歩』(絶版)

鹿沼市史普及版『かぬまの歴史』

中世⑨「今宮権現の成立と社殿の造営」の中で「御所の森」についても述べられています。本会会員で日光山輪王寺宝物殿学芸員の佐々木茂氏が執筆されています。また中世①「中世日光山領の形成」にも「押原御所」に関する記述があります。鹿沼市立図書館等で購入できます。(1,000円くらい)

自然観察クラブ出前授業
鹿沼北小学校・身近な植物の観察
10月12日(水) 天気・はれ

3年生の総合学習の一環で「身近な植物の観察」を担当させていただきました。子どもたちが校庭の自分の調べたい樹木の下で絵を描くなど研究を進めています。私がそれぞれのポイントを廻って行って、その樹木の注目すべき特徴や和名の語源などについて話しました。子どもたちには、公園や校庭の樹木を見た時、これが鹿沼の野山に自然にある樹木なのか、あるいは元々鹿沼の山には自生していない樹木なのか、あるいは外来種なのか、見極めることができるようになってほしい、と伝えました。

また自然観察ではありませんが、この機をとらえて「御所の森」はなぜ御所なのかについて話しました。折しも今年は日光開山1250年。日光山を成立・発展させた象徴的存在として3人が挙げられます。一人は鹿沼にもその足跡を見ることのできる勝道上人、もう一人は東照宮を勧請した江戸時代の天海、そしてもう一人は鎌倉時代に熊野で修行し、日光に修験道を確立した弁覚です。御所とは高貴な人の住所をいいます。日光山と鹿沼は中世を通じて深いつながりがありました。この地は日光山座主の別邸であり、建長3(1251)年に日光山別当の弁覚が、ここ「押原御所」で亡くなったのです。

※ 参加者

北小学校3年生の皆さん、担任の先生方
(計約70名)



授業の初めに説明を聞く

※ 子どもたちが注目した樹木

(針葉樹) ヒマラヤスギ、

(常緑樹)

(落葉樹) アメリカスズカケノキ、
イチヨウ、ケヤキ、コブシ、ソメイヨシノ、
タカオモミジ、トチノキ、ナツツバキ、
ハクモクレン、フジ



ソメイヨシノ



コブシ

鹿沼学舎主催
花木センター見学と茂呂山自然観察会
10月16日(日) 天気・はれ

鹿沼学舎の催しに参加し、鹿沼市花木センターの職員の方にセンター内を案内していただきました。サツキの古い品種を守るべく、たくさんの種類のサツキに品種名を付けて植えてある場所がありました。また海外のバイヤーが購入した盆栽を搬送すべく、集積しておく場所もありました。海外における盆栽の人気はなかなかのもので、盆栽として完成しているものがよく売れるそうです。

続いて隣接する野鳥の森、すなわち茂呂山で、こんどは野生の樹木の観察をしました。ヤマナラシ、ハリギリ、オノオレカンバ、ミズメ、キハダなど古峰ヶ原あたりまで行かないと見られない、と思いがちな樹木も、なかなかたいものが野生で残っており、市街地の近くとしては貴重な森であることが再確認できました。



茂呂山山頂に勢ぞろい

『鹿沼のむかし話』に出てくる「がっから様」もしっかり見てきました。

参加者

赤羽根幸子、稲葉幸枝、金子絢音・結音・慎吾・知恵、西澤美智子、渡辺貴明・充子、福田純一、石崎裕子、阿部良司(計11名)

見た植物・鳥など



がっから様



←コウヤボウキ

↓キハダの大木



高い木のてっぺんに
モズ、秋の風物
↓



～家族山行～

四国・石鎚山

佐々木伸二

8月4日午前4時頃。早くも東の空が白み始めている神橋を過ぎる。日が出始める
と早いもので日光口PAを過ぎるころにはかなり明るくなっていた。

今回は家族旅行として日本百名山にも数えられる西日本最高峰の石鎚山(標高
1982メートル)に登る。われわれ家族5人は羽田空港へと向かうため現在車中で揺
られている。日光宇都宮道路を走り、東北道を南下し、すかさずの首都高を過ぎ、6
時頃には羽田に着いた。

実は僕をはじめ、うちの3兄妹は飛行機に乗るのは初めて。つまり、空港も初めて。
管制塔やら、橋やら、ターミナルビルやらを見つつP4から第1ターミナルへと歩く。トイ
レへ行ってからまわりを見ていると「航空神社」という表示を見つけた。思わず父といっ
しょに行ってみる。少々細めの通路を行った先にあり、神社というよりお社^{やしら}といった感じ
だった。次に羽田へ行ったときはぜひ行ってみてください。第1ターミナルのトイレの横で
す。そのトイレの反対側の横には出発する飛行機が表示されており、そこには南紀白
浜行きと徳島行きにはさまれてこれから乗る松山行きがあった。ここまでのところにあま
り人はいなかったものの上の階にある出発ロビーにはさすがにたくさんの人がいた。慣
れない搭乗手続きをして、保安検査場を通過。と、僕のリュックが引っかかった。一
瞬リュックの中のクマ鈴あたりが引っかかったのかと思ったが、どうやら他の人の荷物
だったようで、何ごともなく終わった。入ってみるとさっそく正面に飛行機がどーんとそび
えていた。それらを見つつ8番搭乗口へと向かう。搭乗口の掲示板には案内が出て
いた。7時25分発、日本航空、松山行き。飛行機は小さめのボーイング737-800。
松山着は8時50分。現地は晴れて気温は25度と出ていた。イ
スに座って飛行機をながめつつ、朝ごはんを食べる。見知ら
ぬ車両が下を走りぬけていき、その後ろの滑走路には飛行
機が次々に着陸してくる。7時10分過ぎに機内に入る。

中は想像していたよりもせまかった。もっと横に広いのかと
思っていたが、それは大型の飛行機の話なのだった。僕は後ろ
から2列目の窓側に座った。窓からは主翼がよく見えた。定刻通りに飛行機はターミ
ナルビルを離れた。すぐに離陸すると思っていたがさすがに羽田だ。滑走路まで長々



(次ページへ続く)

と走って行く。席からは主翼がよく見えていると言ったが、飛行機がガタガタ揺れると、これがグワングワンしてなんとも心細い。これで本当に飛べるのだろうか…と正直不安になってきた。羽田の飛行機の数には本当にすごくてこの飛行機も他の5、6機と隊列を組んで走っていく。外には整備場などが見えてけっこう面白い。飛行機は橋を渡りD滑走路へ出た。真横で飛行機が飛びたっていき、いよいよ僕らの飛行機の番になった。一度ピタッと止まったと思うといきなりもうれつな勢いで加速を始めた。はたから見ていると大した速さには見えないのだが実際乗ってみるとすさまじい。景色だけでなく自分も後ろへ吹き飛びそうな感じだった。そして離陸したと思うと今度は下へと引っぱられた。これがG^{ジー}というものなのだろう。体の中ではらわたが上へ下へ、右へ左へと動きなんとも気持ちが悪い。ふと外を見ると東京の街が見えた。思わずカメラをひっぱり出す。すぐにいろいろなものが見えてくる。おとし船で通った浦賀水道、伊豆大島。その先には箱根山や伊豆半島も見える。その後次々に遠州灘、三河湾、名古屋、伊勢、大阪と見えてくる。地図がないことを悔やんだ。しかし、200年も前に測量だけで日本地図を作った伊能忠敬がどれだけすごいかがよく分かった。あれよあれよというまに高度を落とすと父が20年前、古文書の調査に行った二神島^{ふたがみじま}を見ると間もなく松山空港にすべり込んだ。また減速がすごかった。飛行機の怖い人の気持ちがかかった気がした。松山空港にはポンジュースの出る水道があるうわさを聞いたことがあったが見当たらなかった。後で調べたら2階の出発ロビーに臨時で置かれるとのこと。…到着ロビーに置くね、普通？

ともかくレンタカーを借りて登山口、土小屋へ向かう。車中で寝ていたのだが気づけば山の中である。そのまま2時間以上走り続けようやく11時半過ぎに土小屋へ着いた。ふー疲れた、などと言っていられない。ここからが本番なのだ、と気合いを入れる。

山頂までは4.6キロ。約2時間である。12時前に出発。森の中をしばらく行く。木道や階段などもあってきちんと整備された道に行く。楽な道だ。しかし悪いことがあった。ブユやアブやらがひどいのである。3分も休んでいるとたちまち20～30匹が群れをつかってワーンとうなる。ブユには草むしりの時ひどい目にあっているので逃げる。おかげでまともに休めず歩くこと1時間。不意に雨が降り出した。たちまち土砂降りになり、雨をちっとも避けてくれない木の下でカッパを着る。ずぶぬれになって歩くとロープウェイの方からの道が合流した。ここの何に使うのか分からない小屋は閉まっただけに新しいだけで何の役にも立たなかった。この先に日本でも指折りに長いクサリ場がある。1～3まであり土小屋コースでは2と3を通る。父が20年前登ったときはガケに

(次ページへ続く)

人がはりついていてびっくりした覚えがあると言っていた。そこを見るととても長いクサリがガケからぶら下がっている。濡れているクサリ場の経験はないなので、巻き道に行く。先行していた母がかなりバテていたので妹2人を連れて先に行く。あと600メートルがとても長く感じられた。2時頃に今夜の宿、石鎚頂上山荘に着いた。遅めのお昼を食べて5分もかからない所にある山頂へ。実はここ、本当の山頂ではない。向こうに見える天狗岳が山頂だが、そこまではヤセ尾根に行く必要があり今いる弥山みせんで諦めた。やることもないので山小屋で過ごす。雨が降ったりやんたりに繰り返している。僕は1階で山の本を読んでいたのだが、しばらくすると白い服をきた人がびしょ濡れになってやってきた。神社の人らしい。5時になると石鎚神社頂上社で夕拝が行われる。それが終わると夕食だ。カレーと自身魚のフライ、サラダ、そして寒天入りのあめ湯である。ここ数日カレー続きだったので妹2人は残した。僕はフライを処理した。ここではおかわりは自由だが残してはいけない。7時からニュースを見て、8時過ぎに星を見に外へ出た。目が慣れてくるとおそろしいほどの星が輝いている。何だか有名な星座がかすんで見える気がした。天の川までもがくっきり見えた。旧暦ではもうすぐ七夕たなばたである。ちなみに石鎚山のある久万高原町はやはり星で有名なようだ。山小屋は9時に消灯された。しばらくもぞもぞやっていたが気づくと寝てしまっていた。



朝5時。ご来光を見るために起こされる。外に出ると風が冷たい！ 昨日濡れて干しておいた上着を着て外へ出るとちょうど朝日が出てきた。オレンジの光を放ちながら上がってくる太陽はとても美しかった。小屋に泊まっている全員が見ていたが全部で約10人。20年前は2人だったというから増えているのだろう。6時からの朝拝ちようはいの後朝食をとる。

身のまわりをととのえて8時少し前に出発。天気もよく今まで歩いてきた道とこれから歩く道がよく見えた。ある場所では山頂の神社も見えた。しかしブユやアブが行きを上回るほどいるので大変だ。ブユ口密度こうやアブ口密度こうの高い所では踊りながら歩かねばならない。今度は10秒も止まっていると20～30匹が集まる。全く休まずひたすら歩いていると、段ボール箱を背負ったボッカの人とすれ違った。やはり荷物をはこぶのは大変なんだな、と思ったがそれもブユ攻撃で吹き飛んでしまう。踊りながらずっと歩くと行きも通った登山口へと帰ってきた。歩いてみてブユ、アブには過密はあっても過疎はないということが分かった。後、彼らは白が好きらしく借りた白いレンタカーは大変人気のようにありました。さて、ここから松山までの80キロ(!)を戻らねばならない。カーブの道で車のスピードを出す。すさまじい速さになった。飛行機に続きジェット

(次ページへ続く)

コースターである。

ふもとの面河溪を見物した。ブユは水のきれいな所にわくので案の定盛大なお出迎えをして下さいました。車内に入ってきたアブをはたき落としつつお昼を食べる所をさがしながら走る。道の駅みかわという所に入ったがハズレ。次の天空の郷さんさんはタリだった。よもぎうどんと抹茶ソフトを食べたがどちらもとてもおいしかった。いろいろ食べたがこのソフトはおすすめです。

松山市内へ戻ると一度道後にあるホテルに荷物を置いて市内へと出る。とりあえず松山城へ行ったら車を止めたところは天守まで一番離れた二の丸のところ。山登りのあと600メートルも歩き城を見物した。帰りに下っているとなんと石鎚山に登ってきたというグループと会った。こういう偶然もあるのだな。

松山駅前まで車を返し、松山駅をちらっと見物する。それから少し離れている平面交差を見に行っただ。これ、すごく珍しいです。路面電車で道後へ戻り、有名な本館のすぐそばのところで夕食にした。

ホテルに戻りお風呂に入ってから、道後本館にも入浴に行った。一番安い神の湯階下(410円)に入る。1人で。人がいっぱいいて少々気になりましたがいざ入ってしまえば気になりません。さすがホテルとはちがいます。え？おじいさんみたい？よく言われます。ふと思いで出てくるとやっぱりあった。小説坊ちゃんにも出てくる「湯の中で泳ぐべからず」の札。本にあるものが本当にあるのは面白かった。実はこの本館、近いうちに耐震化工事のため6～7年間休業となる。行っておいてよかった。



22時過ぎに出てきて夕食を食べたりした商店街をもう1度歩く。だいたいのお店は22時で店じまいらしくさすがに人も少なかった。夕方に着いた道後温泉駅に再びやってくる。終電は22時35分。路面電車もさすがにこの時間は20分ごとだ。22時半前にホテルに戻る。部屋に帰ると妹2人は珍しく寝ていた。僕はその横で明日にそなえて荷物を整理したりしつつ、今までもってきた資料やらとってきた写真やらを見たりもしていた。

翌朝、目覚まし通りに5時半に起きる。残り2名のうち約1名はまだ寝ている。いつものことなのでしばらく放っておく。準備の後6時20分頃に起こす。今日の朝はいそがしい。7時から朝食を食べ、7時半にホテルをタクシーで出て松山港へ行き、そこからフェリーで広島へ渡るのである。6時50分頃に全部の荷物を持って食堂へ行く。7時に開くとすばやく席に座り、バイキング形式の朝食を食べる。僕は有名なじゃこ天を食べ

(次ページへ続く)

た。7時半に2台のタクシーに分乗して我々5人は松山観光港へと向かう。リムジンバスや電車という手もあるが、時間もないのでタクシーにした。タクシーの運転手の人は釣り船を持っていて、昨日、例の二神島ふたかみへ行ったと言っていた。霧がすごかったそうだ。また明日は花火大会らしいのだが海の上で船を止めると海上保安庁がうるさくてやっつけられないという。場所とりは陸だけではないのだ。

8時頃に松山観光港に着く。ここからはフェリーで瀬戸内海を越える。ジェット船もあったが、僕らはおとしの伊豆諸島、式根島旅行でフェリーの味をしましめたので、迷わずフェリーを選んだ。8時29分、船は松山観光港を離れた。四国とはこれでさようならである。これから11時5分の広島港までのんびりとした船の旅である。客室にも入らずデッキの煙突の下に荷物を置いて、景色をながめる。日光が照りつけているが、風があるのでちっとも暑くない。これがフェリーのいいところだ。ジェット船ではこうはいかない。クーラーじゃねえ…。瀬戸内の島や、航行する船をながめる。途中で9時に松山を出たジェット船が後ろから追いついていった。あちらのほうが1時間近く早く広島に着く。島が近づくとそのたびにカモメが浮いているのが見える。これはジェットじゃ見えるまい。海がせまくなり、橋をぐるといよいよ軍港、呉の港へと入っていく。さっそくよく分かん軍艦からチップを運んでいるらしい大型船などが見えてきた。と思うとちょっと巨大な船が2隻どどーんとそびえている。空母らしき船も見えた。呉港の近くには「大和ミュージアム」がある。そう、ここ呉は戦艦大和を製作した所なのだ。ここでけっこう人や車が降りてさらにせまくなった海に行く。40分ほどでいよいよ船は広島港に入港した。



隣接した広島港宇品旅客ターミナルから広島市電で原爆ドームへと向かう。乗ったのは最新の「グリーンムーバーレックス」。30分ほどで本通という所に着いた。バスターミナルで広島空港行きリムジンバスのチケットを買った。今は12時前。バスは2時45分である。そこから少し歩くとテレビでよく見る景色が見えてきた。世界遺産、原爆ドームだ。そこを見た後、投下の目標となったと言われるT字の形をした相生橋を渡り、平和祈念式典の開かれた所に行く。そう、今日8月6日は原爆投下の日である。こんな日に行く人はあまりいないと思うが僕らは行った。平和記念資料館は混雑していて大変だった。ここから見ると資料館→慰霊碑→原爆ドームと直線上に並んでいた。このあともう一つの施設と爆心地を見てバスセンターの方へと戻った。ここで広島のお好み焼きを食べたが、時間がなく急いでかきこんだ。熱くてやけどしそうだったが、思ったよりさっぱりした味でおいしかった。10分ほどで完食すると休む間もなくバスセンター

(次ページへ続く)

へ走る。トイレへ行ったりして乗り場に着いたのは3分前だった。乗り場には長い列ができていた。列が進んで前の方へ来た時「乗れますか？」と聞くとバス会社のおじさんの答えは「乗れません」。…えーっ？！ ウソでしょ！？ これに乗らねば羽田行きに間に合わない！！ 乗れない宣告された約10人があわてっていると「増発バスが来ます」と言う。あーびっくりした。それを先に言えよ。バスが我々を残して先に行くとその10分ほど後に増発バスが来た。一同、安心して乗りこむ。それからバスに揺られること1時間。うわさには聞いていたがとんでもない山の中に広島空港はあらわれた。着いた着いたと安心してられない。羽田行きまであと30分ほどしかない。手続きをし、おみやげを買い、保安検査場をぬけて搭乗口へと着いたのは出発10分前。ギリギリだった。16時35分発、日本航空羽田空港行き。我々はやっと本当に安心して飛行機に乗りこんだ。羽田上空がこみあっているので出発が5分ほど遅れて離陸し、行きの飛行機、石鎚からの帰り道に続き、3度目のジェットコースターである。今回は雲ばかりで景色は見られなかったが、そのかわり見たこともないような美しい雲を見せてくれた。ようやく下が見えたとき、飛行機はすでに静岡、遠州灘であった。天竜川の河口が見えたあたりから前方に富士山が見えだした。まさに「頭を雲の上に出し」である。そこを過ぎると飛行機は着陸のため進路をかえた。伊豆大島の上を飛ぶ間、火口がはっきりと見えた。

まもなく高度を落とすと飛行機は羽田に着陸した。ふー着いた、しかーし！ まだ終わらない。また家まで200キロ近く車で行かねばならない。空港内でさんざん迷ったのでこれだけでも一旅行だった。行きのように帰ると家に着いた時には22時ぐらいになっていた。こうして旅行はようやく終わった。

文を短くまとめられないので、こんな長ったらしい文になってしまいました楽しんでいただけたらさいわいです。

2016年9月8日

しかし、空を飛び、レンタカーに乗り、山を歩き、路面電車に乗り、フェリーに乗り、バスに乗りとやたらとあわたましい旅だった。こんど開かれるえひめ国体のスローガンは「君は風、いしづち(石鎚)をかけ、瀬戸にまえ」なのだが、これを僕に訳させてもらおうと「あーいそがし、いそがし。あっち行って、こっち行って、あれ食べて、これ買って…あ！もうバス出ちゃう、急げー！！」なのである。もうちょいどうにかなんないの？ 2つの意味で…。

なお、この旅行のあとわが家に「ポンジュースブーム」が来たことを記しておこう。

芽吹いた古代ハス

ハスはスイレン科ハス属に分類されていた。スイレン科の種子は単溝粒や周溝粒である。ハスは3溝粒であることや含まれるアルカロイドはキンポウゲ科に近いなどの理由から独立させ、ハス科ハス属に改められた。ハスの名は実の形がハチの巣に似ていることから古名のハチスからハスになった。

古代ギリシャやエジプトではスイレンが偶像の象徴であり、インドに伝わってからヒンドゥ教や仏教でハスに変わった。仏教では極楽浄土に咲く花とされ、仏像の蓮座や瓦文様(蓮花紋)に描かれている。中国原産でマメ科のゲンゲ(レンゲソウ)は、花の形が似ているので名付けられたものであり関係はない。ハスの園芸品種は多いが種類は少なく、北米にキバナハスがあるのみである。中国にはレンコンの表皮が赤味を帯びたシナバスがあり、日本へは1876年に食用として入っているが学名はない。

ハスは蓮と書くことから食用にする部分を蓮根というが、じつは根ではなく地下茎である。茎が泥の中にあるので、レンコンの穴は空気が通っている。泥の中に埋もれた植物が葉や花を水面上に伸ばしている状態と想像していただければよい。これも植物の競り合いを避けるための工夫である。

スイレンやハスの雄しべや雌しべの数は多く、しかも付いている基部から離れ気味で、らせん状である。この形態はきわめて原始的な花の構造である。前にも述べたように原始的であるかどうかは、花の大きさではない。少々堅苦しくなったので話題をかえよう。

昔からハスの花が開くときに「ポン」というような音がすると言われている。その音を録音しようとする人がいた。これにヒントを得てか、昔、何の商業かは覚えていないが、小舟に乗ってハスのつぼみにマイクロホンに向けていると急にその音とともに満開となり、ビックリしてのけぞるという面白いのがあった。じつのところ、ハスの花も表面から開いていくので音は出ない。それを本当のように話す人がいた。ハスのつぼみの中は真空なので、開いたときに空気が入り、音が出るというのである。真空であれば、空気の圧力でつぶれてしまっただろう。恐らく魚などが水面で跳

ねたときの音を、ハスの花が開いたときの音と勘違いしたのではなからうか。

前置きが長くなったところで本題に入ろう。

千葉県の検見川に東京大学の農場があり、1951(昭和26)年に遺跡の発掘調査が行われた。このとき3粒のハスの種子が見つかった。ハスの研究で知られる故・大賀一郎博士が栽培され、翌年の7月18日に見事に開花した。すぐそばから出土した木製の丸木舟(一部)の放射性炭素測定の結果、2000年以上前のものであった。これに基づき同博士は2000年前の古代ハスと発表された。だが本当に2000年前のものか?という一部の学者の疑問が根強かった。これまた故人で大賀博士のお弟子さんの阪本祐二先生(和歌山県)は、中国やベトナムの古代ハスや園芸ハスの花粉を調べられた。その結果、1つの花粉母細胞からなる4個の花粉粒が離れずくっついたまま残る4集粒の出現が古代ハスは10%以上であるが、園芸種ではゼロという結果が出た。このことにより千葉で見つかったハスは2000年前のものであることを証明された。千葉県ではこのハスを大賀博士に献名し、「大賀ハス」と命名し県の天然記念物に指定した。ハスの化石はたくさん発見されていて、その子孫と考えられるものもあり、大賀ハスもその1つである。現在、植えられているハスの多くは中国から入ってきたものである。北米ではキバナハスのレンコンも古くから食べられているが、日本のハス同様、レンコンの発達が悪い。日本のハスと中国のハスは、これ以外に区別点がない。

エジプトのツタンカーメン王の墓から発見されたエンドウマメといい、数千年を隔てても発芽する植物の生命力は、おどろきである。

※ 奈良と大阪にまたがる生駒山近く(大阪府側)からも2000年前とされるハスの種子が発見され、芽吹いている。阪本先生の花粉の研究は、国内外の花粉学会に大きい足跡を残された。



昆虫の体つきについて

昆虫の体は頭・胸・腹の3つに分かれていて、3対6本の足があることは学校でも習うのでよく知っていることでしょう。足が6本あるので六脚虫とも言います。羽根があるないにかかわらず、数多い節足動物の中で足が6本あるのが昆虫というわけです。幼虫時代は足がそれ以上あるものもありますが、成虫になれば足が6本なのです。

それでは分かりやすいクワガタムシの成虫を見てみましょう。

頭の下は胸ですが、昆虫の胸は前胸^{ぜんきょう}と後胸^{こうきょう}の2つに分かれています。その境は動く大きい環節で区切られています。これはカブトムシもそうで、羽根があるすぐ上が前胸です。では、足はどこについているのでしょうか。お腹側を見ると前足は前胸のうしろ側にあり、中足と後足は後胸の前側と後側に、それぞれ1対ずつ付いています。後足の下が腹です。ですから、昆虫の足はすべて胸部についているのです。羽根は後胸の前側についていますが、甲虫類は羽根を閉じているのでわかりにくいですね。

アフリカにいるゴライアスという巨大なハナムグリが飛ぶとき、前羽根は開けず、後羽根を出して飛びたつので、逃げるときも素早い動きができます。このように甲虫が飛ぶのは後羽根が重要ですが、これとはまったく逆の昆虫もあります。ハエやアブが飛ぶのは前羽根で、後羽根はバランスをとるための平均棍^{へいぐんこん}というマッチ棒のような形の器官にかわっています。甲虫の前羽根は飛ぶときにまったく役をなしていないというわけではありませんが、主に後羽根や下腹部を守っています。

私が鹿沼へ行く前のことで、理科の入試問題に形のちがう4つの昆虫が絵に描かれていて、その中から足の付き方が正しいものを1つ選べという問題がありました。その正解は2つあったのです。どちらを選んでも正解なのかは分かりません。出題する側も気をつけないといけませんね。

これを機に、鹿沼にいたときに見たり採集したりした昆虫のこど。なぜ標本にして残さなければならないのか、標本の作り方では本に載っていない私の経験談。それにいろんな昆虫のエピソードを紹介する予定です。



月報第 45 号で、私による誤字・脱字がありました。訂正とおわびします。

きのこ再び(中編)	(誤)		(正)
28 ページ 7 行目	食用のノウケ	→	食用のノウタケ
28 ページ下から 2 行目	能本キノコ会		熊本キノコ会
29 ページ 1 行目	下は発赤		舌は発赤
ヒガンバナの考察			
29 ページ下から 2 行目	地誌的		地史的

5 点の写真は編集部さんが掲載してくれたもので、大変感謝しております。

(山口龍治)

☪ 山書談話室 ☪

白坂正治さんより。いつもおたよりありがとうございます。

今号の表紙の 1 冊「本の手帖」は来月下旬刊行予定の『鶴のやうに』でちょうどりあげたところでした。背景が分かって読み解きが深まると思います。“山旅の本コレクション”やはり書影には文字にはない力がありますね。そして田部重治の生きようが“山旅”にこもってますね。ところでこの前の葉書で私自身どう書いたかあやふやなのですが、“佐伯書店”じゃなかったですかね？ 店名の記憶も明確ではないのですが。店主とのやりとり、目に浮かぶようです。山岳書は右の方から入って左の棚にまとまっていたような…。

気付いた点を。(※)

P. 4(大正6年6月8日・北星堂発行)→(大正8年6月8日・北星堂発行)

(最下行)私は再び薬話岳が→私は再び薬師岳が

P. 5(下から 12 行目)案内しようと申し出した。→案内しようと申し出た。

P.12(8 行目)日本ではじめての女子団体登山→日本ではじめての女子団体登山

(4 段 2 行目) 自山に卒直に書く私らの文章→自由に率直に書く私らの文章

(4 段 4 行目)「小説よりも面白いものに思えた」→「小説よりも面白いものに思えた」

※ 例によって前号掲載分の誤記を指摘いただきました。よくもこんなに見落としていたものだ、

と我ながら嘆かわしく思いつつ、今後も懲りずにお付き合い下さるようお願い申し上げます。

また氏より田部重治研究誌「鶴のやうに」第16号をお送りいただきました(右)。謹んで拝読させていただきます。小誌がこのような文学系研究誌と交流できることに対してあらためて出会いの不思議を感じ、お礼申し上げます。

「ボブ・ディラン特集」に対しても、ご感想等、頼りになるのは白坂先生のみ、と信じております。

「田部重治特集」再開第1号は前回と同じ『日本アルプスと秩父巡礼』から「笛吹川を溯る」に焦点をあてます。田部重治の芸術的な文章を楽しんでもらえると思います。「鶴のやうに」田部重治研究誌15、16号から、この文章に対する白坂氏の研究論文を取り上げますので、毎月のおたよりに読んでお気付きのこととは思いますが、白坂氏の脳裏からあふれ出る、ゆたかな言葉とそれを上手に紡いでできた美しい文章を随所に見ることができると思います。



☺ 愛書家のひとりごと ☺

励ましの言葉

表紙に三木清の「人生論ノート」や田部重治の「心の行方を追ふて」が登場して、自然観察クラブ？ちょっと違うんじゃない、と思う方もいらっしゃるかもしれない。しかし「人はパンのみで生きるのではなく、神のみことばによる」とマタイ伝にあるように、私たちがいつも生きるすべを考えていなければいけないし、言葉による励ましは生きてゆく上でなくてはならぬものである。人生において最も優先すべきことは、生きのびることだと思う。命さえ失わなければなんとなかなるものである。人生論のような書物の中には、そのような勇気を与えてくれるような言葉がたくさんあるはずだから、僕はそんな言葉を探しながら、本を読んで行きたいと思う。

僕がボブ・ディランからどのような影響を受けているかはわからないが、図書館のアルバイトでボブ・ディランを知った大学生時代から、たびたびボブ・ディランに励まされたことは確かである。人間にとって感動し、喜び、悲しみ、涙を流すことは、その人間性の形成に影響し、その度に人は成長していくものである。ボブ・ディランの言葉はそれ自体、感動をもたらすものであり、心が躍動するものであり、悲しくもあり、泣けるものである。また一方、悲しい時、やっちゃった時、絶望した時、失恋した時、くやしい時、折にふれボブ・ディランの言葉がうかんで来て、励まされ、なぐさめられたのも事実である。人は言葉によって励まされ、生きてゆくことができるのである。

「頑張っ！」という簡単な言葉に対しても、素直に励ましの言葉ととらえ、ありがたく受け取り

(次ページへ続く)

たいものである。励ましてあげたいと思っても、どうい言葉で表現したらいいのか、たいの人は苦勞するものなのだから。

ボブ・ディランのLPレコードを発売年代別に並べ、それぞれの中から一つ、好きな言葉を取り上げてみました。今回は1962年発売の「BOB DYLAN」から1965年発売の「HIGHWAY 61 REVISITED」までです。

わたしはあした行くのです。きょう行くことだってできる。いつかどこへ旅立つのです。でもどうしてもいたくないことは、わたしもまたつらい旅をしているということ。

Song to Woody / BOB DYLAN (1962.3.19 発売)

あの遠い、さびしい道を、ぼくはあるいている/どこへいっか わからない/だけれど さよならなんてことばは もったいない/だからただこう言う 元気でね/きみがつめたかったなんていうつもりはない/ (中略)/けれど、くよくよしてもはじまらない、これでいいんだ。

Don't Think Twice, It's All Right / THE FREEWHEELIN' BOB DYLAN (1963.5.27 発売)

きみの立場からきみは正しい、ぼくの立場からぼくは正しい。ふたりともあまりに多くの朝と、一千マイルをうしろにしてきたのだから。

One Too Many Mornings / THE TIMES THEY ARE A-CHANGIN' (1964.1.13 発売)

ぼくとおなじように感じてほしいとか、見てほしいとか、ぼくとおなじようであってほしいとかいうのではない。ほんとうに求めることはね、きみと友だちになりたいんだ。

All I Really Want to Do / ANOTHER SIDE OF BOB DYLAN (1964.8.10 発売)

だが、それでいいんだ おかあさん、それが生きるということ、ほかにはないんだ。

It's Alright, Ma (I'm Only Bleeding) / BRINGING IT ALL BACK HOME (1965.3.22 発売)

どんな気がする、どんな気がする、かえりみちのないことは、ぜんぜん知られぬ、ころがる石のよなことは。 *Like a Rolling Stone* / HIGHWAY 61 REVISITED (1965.8.30 発売)

励ましの言葉 プラス

この文章を書いた後、身内に不幸があった。僕はこのことで悲しくて泣くこともなかった。そして先日、小中学校の時の友人からメールが届いた。訃報に気がつかず、葬儀に参列できなかったことを詫言る内容であったが、僕はこのメールが嬉しくて泣いた。かけがいのない、「励ましの言葉」である。 (阿部良司)

☪ あとがき ☪

この夏、女峰山に登ってからまもなく、西山氏から電話で、「今、奥白根山の山頂にいる」と報告があった。友人と2人で登られたらしい。そして今度の男体山。西山氏は今年、少なくとも2000mの山3つ、日本百名山も、僕の知る限り2つは登って

ることになる。男体山に登りながら、先生は日本百名山をねらっているな、と察したので、下山後、12月は雲取山に行きましようか、とお誘いしたところ。

昨日のNHKラジオで、ある投稿者が「毎年その年の西暦と同じ数字の標高の山を探して登っている」との談。そして来年は西暦2017年。この数字に当たる標高の山が雲取山なのだそう。東京都の最高地点、そして奥秩父のほぼ東端、田部重治のレリーフのある山である。そして西端、瑞牆山(2230m)の麓には田部重治の山の友、木暮理太郎のレリーフがある。

これにあやかって、また田部重治特集を記念して、来年こそ、雲取山行を実行したいものです。しかし、この数字にこだわっているのは奥秩父の高峰、金峰山(最高峰は奥千丈岳であるが)に登れるのは西暦2590年ということになってしまうので、数字にこだわるのは雲取山にとどめ、順次速やかに、登山実行していきたいものです。

去る11月19日、山口龍治さんが鹿沼に来られ、石崎夫妻とわが家3名の計6名、奥塩原の温泉に1泊して、新湯富士に登り、大沼周辺を散策してきた。山口さんの元気な様子を見て、本当に嬉しかった。郷里に帰られてから3年。この間、彼は肝臓病を患い、肝臓移植手術を受けたのである。そして今、彼は何の薬を飲む必要もなくなり、好きな酒も飲んでいる。これは奇跡的なことなんじゃないかな、と僕は思うから、命だけは大事にして、と言いたい。そして、さっそく来年にでも、本会で奈良を訪問しようということになった。石崎氏はかなり本気で話していたから、実現するんじゃないかと思う。僕は春日大社の太古の森に行ってみたいなあ。

ついでながら、僕の店の南側の空き地に生えてきた樹木を見てもらった。葉の感じはカキみたいだがカキよりも葉の幅がせまく、細い感じ。あとからお電話をいただき、マメガキとしか考えられない、とのこと。そのうち、直径2~3cmのカキの実が鈴なりになる様子が見られるかも。もうしばらく、切らないで育ててみるか。

また北小学校中庭のゲッケイジュの裏側にあるのはクワ(ヒメコウゾではなく)、御所の森の3つの石のほらの背後にある若木はクロガネモチであるとのことでした。これで「北小校庭の樹木図鑑」は葉影と分布図のみで、とりあえず完成しそう。

ボブ・ディラン特集はあと2~3回にわたって続けるつもりです。その後、田部重治に戻って「紀行・随想」を2~3回、翻訳(英文学)、アンソロジー、文庫と続ける予定です。その後、生物関係に戻れるかどうか。魚類関係でもおもしろそうな本が見つかっています。

(阿部良司)

☞ 本号の内容 ☜

活動案内・1	坂田稻荷奥社と来光参拝・・・・・・・・・・・・・・・・	2
活動案内・2	八溝山ハイキングと「おくのほそ道」探訪・・・・・・・・	2
その他のご案内	自然観察クラブ新年会・・・・・・・・・・・・・・・・	3
表紙のLP	ボブ・ディラン『THE FREEWHEELIN' BOB DYLAN』・・・・・・・・	4
活動報告・1	男体山ハイキング・・・・・・・・・・・・・・・・	21
野州文献好古	日光山沿革略記・・・・・・・・・・・・・・・・	24
活動報告・2	自然観察クラブ出前授業 鹿沼北小学校・身近な植物の観察・・・・・・・・	25
活動報告・3	鹿沼学舎主催 花木センター見学と茂呂山自然観察会・・・・・・・・	26
会員からのおたより	家族山行～四国・石鎚山～・・・・・・・・・・・・・・・・	27
山口さんの自然講座	芽吹いた古代ハス・昆虫の体つきについて・・・・・・・・	33
山書談話室	・・・・・・・・・・・・・・・・	36
愛書家のひとりごと	励ましの言葉・・・・・・・・・・・・・・・・	37
あとがき	・・・・・・・・・・・・・・・・	38

鹿沼の自然・栃木の旅 月報第47号

2016年11月発行

北光・自然観察クラブ 鹿沼

鹿沼市戸張町1818

(クリーニングハウスあべ内)

発行人 阿部 良司

携帯 090-1884-3774

FAX 0289-62-3774

携帯 ☎ shizenclub.2006@docomo.ne.jp

E-mail a2b5r7j7@one.bc9.jp



ホームページでもご覧になれます→

クリーニングハウスあべ

検索